

スポーツ健康科学部の水泳の授業展開についてⅢ  
～コロナ禍における対応～

水野 かゝみ

Study on the class of the swimming in Faculty of Sports and Health Part III  
— under the influences of Covid-19 —

Kagami MIZUNO

研究紀要 第23号 別刷 (2022年3月)  
中部学院大学・中部学院大学短期大学部

*Reprinted from* THE JOURNAL of  
CHUBU GAKUIN UNIVERSITY, CHUBU GAKUIN COLLEGE  
No.23 : 141 – 149 (March 2022)  
SEKI, GIFU, JAPAN

## スポーツ健康科学部の水泳の授業展開についてⅢ ～コロナ禍における対応～

### Study on the class of the swimming in Faculty of Sports and Health Part III — under the influences of Covid-19 —

水野 かゝみ  
Kagami MIZUNO

抄録：中部学院大学スポーツ健康科学部は昨年完成年度をむかえ、開設5年目に入った。昨年度より、新型コロナウイルス感染状況拡大による影響を受け、1年半経っても未だに収束していない状況が続いている。大学の授業展開においても様々な工夫がされているところだが、特に実技・演習科目については担当者の頭を悩ませている。本学は今年度については対面授業と遠隔授業を交互に実施する方針でスタートした。そのような中、筆者の担当する「水泳実技」の授業は感染予防対策を取りながら、可能な限り対面授業を実施した。本学はプール施設がないため学外の施設を借用しているが、幸いなことにコロナ禍においても施設が開館されていたことと、関係スタッフの全面的な協力のもとに水泳の授業を実施することができた。本稿はその授業展開について報告することとし、それを踏まえたうえで、今後の授業展開方法及び水泳教育の在り方について考察する。

キーワード：水泳教育、新型コロナウイルス感染予防対策、指導体制、保健体育科教員養成

#### 目 的

2017年4月に本学のスポーツ健康科学部スポーツ健康科学科が新設されて今年度は5年目を迎えた。本学部のカリキュラム内容はすべての学部生が中学・高等学校の保健体育教員を目指すことができるようになっている。筆者が担当している「水泳」は教員免許取得希望者にとっては必修科目である。2年次に配置され、半期で完結するようになっているが、その授業展開についてこれまで報告してきた通りである(水野2018, 2019)。担当者にとって最大の課題は、本学にプール施設がないため、他の施設を借用して授業展開をしなければならないことである。そのため毎回学外へ学生たちを移動させることになるので、それに伴う環境面での安全確保、及び授業時間内における指導体制など、学内での実施以上にさまざまな配慮をしなければならない。そのような状況のなか、昨年度(2020)と本年度(2021)は追い打ちをかけるかのように、新型コロナウイルス感染症(以下、コロナと記述する)の影響を受けることとなった。緊急事態宣言の発令とともに全国の大学の授業そのものについて、教員は実施方法の対応に追われていた。昨年度(前期)の本学の水泳の授業は、借用予定のプール施設が開館になったこともあり、ほぼ遠隔授業となった。終盤に

なり施設が開館されたタイミングで、プールでの授業を試みたが、「個人利用」の扱いであったため、水慣れ程度しか実施出来なかった。しかし、たとえ施設が前期すべて開館していたとしても、担当者として責任を持って対応する自信がなかったことが大きい。あれから1年経ち、本年度の前期については、大学の授業体制が登校する学生を全体の半分にする目的で、対面授業と遠隔授業を交互に実施するという方針になった。しかし、昨年度の水泳の授業展開の反省をふまえ、可能な限り対面で実施したい意向を大学に申し出て承認されたためプールでの授業を展開した。本稿はコロナ禍における本年度の水泳の授業展開について、指導体制や受講状況をまとめ、未だ収束していないコロナ禍において、感染予防対策を取りながら今後の水泳の授業をどのように展開していくことが望ましいのか考察する。

授業の体制は、これまで借用していた市民プールの場所(市の体育館内)が、コロナワクチンの接種会場となったため、急遽、某スポーツクラブに場所を移して展開することとなった。週2回(月・金午後2時間)プールを借用して授業を実施した。本年度の授業計画(シラバス)を表1に示す。これまでと同様に、半期科目であること、小・中・高における学びを踏まえたうえで、保健体育教員として備えておくべき技術や技能を習得できるよう考

表1 水泳実技 シラバス2021年度版

2021年度 水泳 授業計画																																																																																								
			担当者 水野がみ																																																																																					
<科目> 水泳健康科学部 専門教育系・専門共通科目 半期(前期:16回) 1単位 <関連資格・免許> 中学・高校保健体育教員免許取得希望者必修科目(予定) <到達目標> 水と水泳の特性を理解し、自己保全の仕方と各種泳法を身につける。指導者の立場としての心構えや水泳中に起こりうる事故やけがの対処法について理解する。 <講義概要> 安全を確保しながらさまざまな泳ぎ方を習得し自己の泳力を高めることをねらいに4泳法(クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ)、横泳ぎ(水府流太田派、立ち泳ぎ(踏み足、巻き足))について学習する。さらにそれぞれの泳ぎ方の指導法及び水泳中に起こりやすい事故に対する対処法について理解する。																																																																																								
<授業計画表> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業日程</th> <th>月曜日</th> <th>金曜日</th> <th>場所</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>4月12日</td><td>4月9日</td><td>教室</td><td>ガイダンス</td></tr> <tr><td>2</td><td>4月19日</td><td>4月16日</td><td>プール</td><td>水馴れ・泳力判定</td></tr> <tr><td>3</td><td>4月26日</td><td>4月23日</td><td>プール</td><td>泳法(クロール)</td></tr> <tr><td>4</td><td>5月10日</td><td>4月30日</td><td>プール</td><td>泳法(クロール・背泳ぎ)</td></tr> <tr><td>5</td><td>5月17日</td><td>5月14日</td><td>プール</td><td>泳法(クロール・背泳ぎ・ターン)</td></tr> <tr><td>6</td><td>5月24日</td><td>5月21日</td><td>プール</td><td>泳法(平泳ぎ)</td></tr> <tr><td>7</td><td>5月31日</td><td>5月28日</td><td>プール</td><td>泳法(平泳ぎ)</td></tr> <tr><td>8</td><td>6月7日</td><td>6月4日</td><td>教室</td><td>泳法(平泳ぎ・ターン)</td></tr> <tr><td>9</td><td>6月14日</td><td>6月11日</td><td>プール</td><td>泳法(バタフライ)</td></tr> <tr><td>10</td><td>6月21日</td><td>6月18日</td><td>プール</td><td>泳法(バタフライ)</td></tr> <tr><td>11</td><td>6月28日</td><td>6月25日</td><td>プール</td><td>水泳における救急法と救助法</td></tr> <tr><td>12</td><td>7月3日(土)</td><td>7月2日</td><td>プール</td><td>総合練習</td></tr> <tr><td>13</td><td>7月5日</td><td>7月9日</td><td>プール</td><td>総合練習</td></tr> <tr><td>14</td><td>7月12日</td><td>7月16日</td><td>プール</td><td>実技テスト</td></tr> <tr><td>15</td><td>7月19日</td><td>7月23日(祝)</td><td>教室</td><td>理論</td></tr> <tr><td>16</td><td>7月26日</td><td>7月30日</td><td>教室</td><td>理論のテスト</td></tr> </tbody> </table>				授業日程	月曜日	金曜日	場所	内容	1	4月12日	4月9日	教室	ガイダンス	2	4月19日	4月16日	プール	水馴れ・泳力判定	3	4月26日	4月23日	プール	泳法(クロール)	4	5月10日	4月30日	プール	泳法(クロール・背泳ぎ)	5	5月17日	5月14日	プール	泳法(クロール・背泳ぎ・ターン)	6	5月24日	5月21日	プール	泳法(平泳ぎ)	7	5月31日	5月28日	プール	泳法(平泳ぎ)	8	6月7日	6月4日	教室	泳法(平泳ぎ・ターン)	9	6月14日	6月11日	プール	泳法(バタフライ)	10	6月21日	6月18日	プール	泳法(バタフライ)	11	6月28日	6月25日	プール	水泳における救急法と救助法	12	7月3日(土)	7月2日	プール	総合練習	13	7月5日	7月9日	プール	総合練習	14	7月12日	7月16日	プール	実技テスト	15	7月19日	7月23日(祝)	教室	理論	16	7月26日	7月30日	教室	理論のテスト
授業日程	月曜日	金曜日	場所	内容																																																																																				
1	4月12日	4月9日	教室	ガイダンス																																																																																				
2	4月19日	4月16日	プール	水馴れ・泳力判定																																																																																				
3	4月26日	4月23日	プール	泳法(クロール)																																																																																				
4	5月10日	4月30日	プール	泳法(クロール・背泳ぎ)																																																																																				
5	5月17日	5月14日	プール	泳法(クロール・背泳ぎ・ターン)																																																																																				
6	5月24日	5月21日	プール	泳法(平泳ぎ)																																																																																				
7	5月31日	5月28日	プール	泳法(平泳ぎ)																																																																																				
8	6月7日	6月4日	教室	泳法(平泳ぎ・ターン)																																																																																				
9	6月14日	6月11日	プール	泳法(バタフライ)																																																																																				
10	6月21日	6月18日	プール	泳法(バタフライ)																																																																																				
11	6月28日	6月25日	プール	水泳における救急法と救助法																																																																																				
12	7月3日(土)	7月2日	プール	総合練習																																																																																				
13	7月5日	7月9日	プール	総合練習																																																																																				
14	7月12日	7月16日	プール	実技テスト																																																																																				
15	7月19日	7月23日(祝)	教室	理論																																																																																				
16	7月26日	7月30日	教室	理論のテスト																																																																																				
<参考文献> 水泳指導教本(大修館書店)、赤十字水上安全法講習教本(日本赤十字社) <評価方法> 出席状況、受講態度、技術評価、理論評価により総合的に評価する <受講上の注意> 実技は学外のプールで行うため、履修者全員で毎週大学よりバスで移動する。13:00登校のため、必ず朝食をすませ、必要なもの(水着・帽子、ゴーグル、タオル、筆記具、その他)だけを持ってバス乗り場に集合する。この時点で間に合わなかった者は欠席となるので注意すること。また、往復の移動のバスの中で健康チェック及び学習成果のチェックを行うため筆記用具は必ず持参する。なお選別・見学は一切認めない。																																																																																								

慮し計画をした(文部科学省, 2008:2009)。教職を希望する学生が多いのか、受講人数が予定の40名を超え、1コマ開講では難しいため2コマを確保し、月曜日クラス・金曜日クラスとした。片道約20分かけてバスで移動し、プールで授業を実施した。大学からプールまでの移動は常に筆者が受講生を引率し、移動中の安全確保のため、バスの乗り遅れや現地に直接個人で移動することは一切認めなかった。今回コロナ禍のため、スクールバスにおいても乗車人数の制限があったが、乗車時の運転手さんによる手指消毒、教員による検温、座席を必ず1つ空ける、マスク着用、会話はしないなどのルールを徹底し、1台で移動できるようにした。また、移動時間を有効活用するため、往きのバスの中では点呼後に毎回問診票(筆者作成)を用いて授業前の体調のチェックを行い、参加の有無について各自が判断した上で提出をさせた。今回はこれに加え、スポーツクラブ側にも健康チェックの用紙(表2)を提出しなければならなかったため、それにも記載させ提出してもらった。さらに授業終了後は、帰りのバス乗車時に手指消毒の上体調のチェックを行い、毎回授業評価および感想・反省を記載し、降車時に提出をさせた。

## 方法

### 1. 調査対象者

2021年度水泳実技受講者63名(受講対象者のうち単位が取得できた者)

表2 施設側に提出する健康チェック表

<新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力ください>

次の症状に該当する方は入場をお断りいたします。以下チェック□と署名をお願いします。

- ・風の症状(発熱・くしゃみ・咳が出る)
- ・強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ
- ・咳・痰・胸部不快感
- ・その他新型コロナウイルス感染可能性のある症状
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる者がいる

私は上記5項目に該当いたしません

2021年 月 日 氏名 \_\_\_\_\_

### 2. 調査期間

2021年4月～8月、前期の水泳の授業の時間内

### 3. 調査の種類

調査は以下の3種類とした。①表3に示す通り受講生の性格特徴、運動・スポーツに対する態度などに関する調査 ②水泳経験、泳力、指導力などに関する調査 ③学生の学習評価については表4で示す通り授業時間内の受講者の行動や態度などに関する調査(全日本スキー連盟, 1996)

表3 受講者の特徴について

質問項目	%		
	はい	どちらともいえない	いいえ
1. あなたは身体を動かすことが好きですか。	96.8	3.2	0.0
2. あなたは夢中になれるスポーツがありますか。	95.2	3.2	1.6
3. あなたは小・中・高の体育の授業は好きでしたか。	93.7	4.8	1.5
4. 体育の成績評価は全般に良かったですか。	90.5	9.5	0.0
5. あなたは運動能力に自信はありますか。	60.3	38.1	1.6
6. あなたは体力に自信はありますか。	61.9	30.2	7.9
7. あなたは健康だと思っていますか。	81.0	17.5	1.5
8. あなたはスポーツを見るのが好きですか。	92.1	7.9	0.0
9. 赤ちゃんを見てかわいいと思いますか。	92.1	6.3	1.6
10. あなたは幼児と遊ぶことができますか。	84.1	12.7	3.2
11. あなたは子どもが好きですか。	79.4	15.9	4.7
12. あなたは小学生と遊ぶことができますか。	73.0	22.2	4.8
13. あなたはお年寄りとの会話ができますか。	81.0	17.5	1.5
14. あなたは初対面の人と平気で会話ができますか。	46.0	38.1	15.9
15. あなたは明るい性格だと思いますか。	49.2	42.9	7.9
16. あなたは忍耐力がありますか。	74.6	22.2	3.2
17. あなたは努力家ですか。	44.4	50.8	4.8
18. あなたは運動やスポーツを教えたことがありますか。	84.1	11.1	4.8
19. あなたは機会があれば教えたいと思いますか。	81.0	19.0	0.0
20. あなたは運動やスポーツの指導者になりたいと思いますか。	60.3	33.3	6.4
21. あなたは学校の体育の先生になりたいですか。	41.3	46.0	12.7
22. あなたはもっとうまくなりたいと思っている運動技術がありますか。	93.7	4.8	1.5
23. あなたは運動・スポーツに関する本は読む方ですか。	31.7	39.7	28.6
24. あなたは運動・スポーツに関するビデオやDVDは見る方ですか。	68.3	22.2	9.5

表4 学習評価項目

1. 精一杯全力を尽くして運動することができましたか
2. 今日学習したことは、自分たちにはあっていましたか。
3. もっと長くやりたかったですか。
4. 深く心に残ること感動することはありましたか。
5. 運動の仕方を考えて練習しましたか。
6. いままでできなかったことが、できるようになりましたか。
7. 「あっそうか」「あっわかった」とおもったことがありましたか。
8. 学習の約束をきちんと守ることができましたか。
9. 運動のルールを守って学習できましたか。
10. 自分から進んで学習することができましたか。
11. 自分のめあてを持って学習できましたか。
12. 仲間に教えてあげたり、教えられたことはありましたか。
13. 仲間と協力して仲良くできましたか
14. 思わず拍手をしたり、「ワーッ」と歓声をあげたことがありましたか。

#### 4. 調査の実施

①②は「水泳」の授業時間の初回ガイダンス時と最終回授業終了後に実施した。③はプールでの授業終了後毎回実施した。「学習意欲」「達成」「学習の規律」「かかわり」の4項目について評価を行った。①と③の調査はいずれも用意された質問に対して「はい」、「どちらともいえない」、「いいえ」の3段階で自己評価させた。

#### 5. 調査結果の処理

①の調査では3段階別に該当者を分類し、その結果を割合で示した。②の調査の回答結果通り割合を示した。③の調査は、学習意欲については「楽しさ」に関する評価因子3項目、技能や認識については「達成」に関する評価因子4項目、学習の規律については「学び方」に関する評価因子4項目、かかわりについては「協力」に関する評価因子3項目である。「はい」は3点、「どちらともいえない」は2点、「いいえ」は1点と点数化して整理した。評価因子が3項目の場合は3点から9点、4項目の場合は4点から12点の範囲になり、点数が大きいほど評価が高い。

#### 6. 倫理的配慮

今回のデータを収集するにあたっては、対象者に対し、事前にその目的及びデータ分析の処理について口頭にて十分に説明し、同意を得て実施した。

## 結 果

#### 1. 受講生の特徴について

受講生の特徴に関する調査は、1)運動能力や健康度、2)スポーツに関する興味や関心度、3)性格特徴、4)他者との関わり、5)指導経験・指導意欲の5点とした。表3には、調査①の各調査項目別に調査協力者63名を3段階別に分類し、百分率で示した。

##### 1) 運動能力および健康度

表3によれば、「身体を動かすことが好き」と回答した者は96.8%、「夢中になれるスポーツがある」と回答した者が95.2%、「スポーツを見るのが好き」と回答した者が92.1%であった。「小学校、中学校、高校時に受けた体育の授業が好き」と回答した者は93.7%、「体育の成績評価も良かった」と回答した者が90.5%と高い割合であった。しかし、「運動能力に自信があるか」という質問に対して、「ある」と回答した者は60.3%であり、「どちらともいえない・ない」が39.7%であった。また、「体力に自信があるか」という質問に対して、「ある」と回答した者は61.9%で「どちらともいえない・ない」と回答した者の割合は38.1%であった。さらに「健康だと思っているか」という質問に対して、「健康である」と回答した者が81.0%、「どちらともいえない・健康でない」が19.0%であった。

##### 2) スポーツに関する興味や関心度

自分自身のスポーツの取り組み姿勢に関して、「さらにうまくなりたいと思っている運動技術がありますか」という質問に対して、「ある」と回答した者が93.7%、「どちらともいえない・ない」が6.3%であった。「運動やスポーツに関する本は読むほうですか」という質問では、「読む」と回答した者が31.7%、「どちらともいえない・読まない」が65.3%であった。さらに「運動やスポーツに関するビデオやDVDは活用しますか」という質問に対して、「活用する」と回答した者が68.3%、「どちらともいえない・活用しない」が31.7%であった。

##### 3) 性格の特徴

「明るい性格だと思いますか」という質問に対して、「思う」と回答した者が49.2%、「どちらともいえない・思わない」が50.8%であった。「忍耐力がありますか」という質問に対して、「ある」と回答した者が74.6%、「どちらともいえない・ない」が25.4%であった。「努力家だと思いますか?」という質問に対して、「思う」と回答した者が44.4%、「どちらともいえない・思わない」が55.6%であった。

##### 4) 他者との関わり

対人関係についての質問において、「赤ちゃんをみてかわいいと思う」と回答した者が92.1%であり、「子どもが好きだ」と回答した者が79.4%と高い割合を示した。「幼児と遊ぶことができるか」という質問に対して、「遊べる」と回答した者は84.1%、「どちらともいえない・いいえ」と回答した者が15.9%であった。また、「小学生と遊ぶことができるか」という質問に対して、「できる」と回答した者が73.0%、「どちらともいえない・できない」と回答した者が27.0%であった。「お年寄りと会話ができますか」という質問に対しては、「できる」と回答した者が81.0%、「どちらともいえない・できない」と回答した者が19.0%であった。さらに「初対面の人も会話することは平気な方ですか」という質問に対しては、「はい」と回答した者が46.0%、「どちらともいえない・いいえ」が54.0%であった。

##### 5) 指導経験・指導意欲

運動やスポーツの指導経験に関する質問において、「ある」と回答した者が84.1%、「どちらともいえない・いいえ」と回答した者が15.9%であった。また、「機会があれば教えたいと思いますか」という質問に対して、「教えたいと思う」81.0%、「どちらともいえない」19.0%で「教えたいと思わない」と回答した者はいなかった。さらに「運動やスポーツの指導者になりたいですか」という質問に対しては、「なりたと思う」と回答した者が60.3%、「どちらともいえない・なりたと思わない」が39.7%であった。「学校の体育の先生になりたいと思いますか」という質問に対して、「なりたと思う」が41.3%「どちらともいえない」および「なりたと思わない」が58.7%であった。

## 2. 水泳の授業展開について

### 1) 授業内容と指導体制

昨年度(2020)は水泳の授業を開始して3年目であったが、コロナ感染のため緊急事態宣言が発令されたことにより、大学の授業はすべて遠隔授業となった。それまで借用していた学外のプール施設も閉館となり実技の授業を実施できる状況ではなかった。遠隔授業においては「水泳に関する理論」や「水との関わり」、「水の事故から身を守るための方法」などについて講義資料を配信するのが精いっぱいであった。最後まで遠隔授業の予定であったが、前期の終盤(6月末~7月)になってようやくプール施設が開館したので、予定を変更し、対面授業に切り替えた。通常の班別体制の指導はできないにしても、「水に馴れる」ことをねらいとして受講者を4クラスに分け、一人当たり2回はプールに入水できるよう計画し実施した。プールに行く前の準備として学生にどのような「水馴れ」をするのか、各自練習メニュー内容を立案させて授業にのぞんだ。たった2回ではあるが水を介した学習を実施することができた。

本年度(2021)になっても、コロナ感染拡大は収束しなかったが、プール施設は開館していたため、すべて対面授業で実施することを決定した。

授業内容(表1)に示した通り、すべて対面での実施を前提に計画をしたが、5月中旬に運動部のクラスター発生により、やむを得ず2回分(2週間)を遠隔授業に切り替えた。結果的に定期試験を含む授業回数16回のうち、10回をプールで実施し、初回のガイダンスと1回の水泳理論、そして最終回に理論のテストを学内で実施、2回分を遠隔授業で対応した。本年度借用した施設は某スポーツクラブであったが、受講人数を考慮し25M屋内プール3コースを借用することができた。残りのコースは常時、一般の会員が利用していた。

11時間目の「立ち泳ぎと救助法」の練習の回の時には、水上安全救助員の有資格者の方に加わっていただいた。普段の指導体制は、筆者と現場の有資格者の指導スタッフ3名に依頼して行った。

1回の指導の流れについて筆者が毎時間、時案を作成し事前に指導スタッフにメールで送り把握してもらった。授業当日は、13:00発の大学専用バスに筆者と受講者全員が乗り、約20分かけてプールに到着する。施設玄関のところで全員手指消毒をして、それぞれ更衣に向かう。更衣室については男性用と女性用があるが、男子学生の人数が多いので密になることを避けるため、スポーツクラブのご厚意により、子ども用男女の更衣室両方を活用させていただいた。更衣を済ませ、プールサイドに来たら各自で準備体操を行い、その後シャワーを浴び、事前に(バスの移動中)に指示した通りウォーミングアップまで終わらせるように指導した。全体での開始はおおよそ13:40分であった。最初に筆者が全体に向けて本時の内容説明と模範を示し、その後レベル別に3つの班に

わかれ、それぞれ練習をすすめた。今回の指導スタッフは水泳指導専用のマスクを着用していた。着用したまま水中に潜ることも、泳ぐことも可能なマスクであった。説明の声が聞き取りにくいかわれたが、学生には声もよく聞こえていたようである。全ての班が練習を終え、班ごとに指導スタッフから感想と助言を述べてもらい挨拶をして練習は終了となる。帰りは待機してもらっていた大学専用バスに15:00までに集合させ、その後出発し大学に到着次第授業は終了、順次解散とした。なお、授業中の安全確保のための監視体制および水質・水温・室温等の環境については施設側に一任したが、特に問題は無かった。

### 2) 受講生の水泳経験と泳力の実態

受講生の水泳経験について、学校体育における水泳の授業の有無(図1)より、小学校時は100%、中学校時は87.3%、高校時は28.6%の者が「授業があった」と回答した。また、学校にプールが整備されていたかについて、小学校時は95.2%、中学校時は88.9%、高校時は33.3%であった(図2)。受講前の泳力(自己申告)については「全く泳げない」と回答した者が0.0%、「25M泳ぐ自信がない」が15.9%、「25M~50M未満」が28.6%、「50M以上100M未満」が23.8%、「泳力には自信がある」が31.7%であった(図3)。泳法については「自信がある」と回答した種目は「平泳ぎ」20.6%、「クロール」19.0%、「バタフライ」6.4%、「背泳ぎ」6.3%であったが、一方で「自信がない」と回答した種目は「バタフライ」61.9%、「背泳ぎ」50.8%、「平泳ぎ」25.4%、「クロール」14.3%という結果であった(図4)。これまでに泳いだことのある場所について、「屋内プール」と回答した者は90.5%、「屋外プール」は95.2%、「川」が60.3%、「海」が58.7%であった(表5)。遠泳経験のある者は7.9%であった(表6)。飛び込みができるかどうかについて、「自信がある」と回答した者は36.5%、「自信がない」が52.4%、「わからない」が11.1%であった(表7)。実際に飛び込み台からの指導を受けたことがあるかについては、「教わったことがある」と回答した者が27.0%、「ない・わからない」が73.0%であった(表8)。水泳指導経験の有無について「ある」と回答した者はわずか4.8%(表9)であったが、「水泳の指導法に関心がある」と回答した者は36.5%(表10)であった。しかし、「水泳指導者資格に関心のある者」は15.9%と低い割合であった(表11)。水の事故の経験について「ある」と回答した者が3.2%、「ない」と回答した者が96.8%であった(表12)。事故経験のある者の内容は「幼少期に海で深い所まで行き溺れた」「川で溺れそれ以降泳いでいない」「トライアスロン中、顔を蹴られて溺れそうになった」という記載があった。

### 3. 受講生の学習評価について

学習評価については、月曜日クラスを表13に、金曜日クラスを表14にそれぞれ示した。2クラスとも練習内容

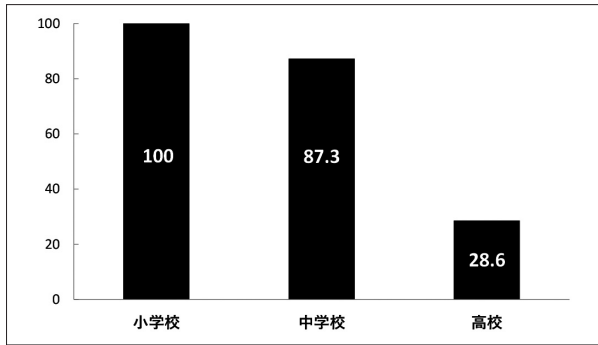


図1 受講者の水泳の授業経験について (%)

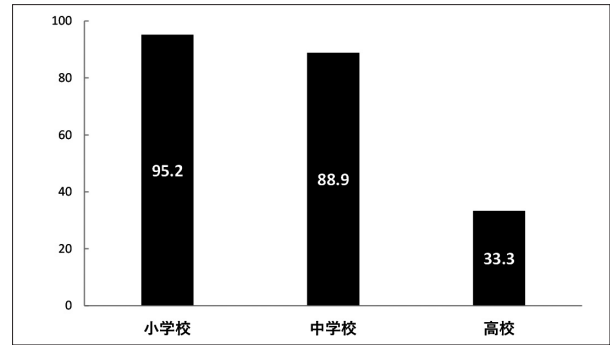


図2 学校プールの設置有り (%)

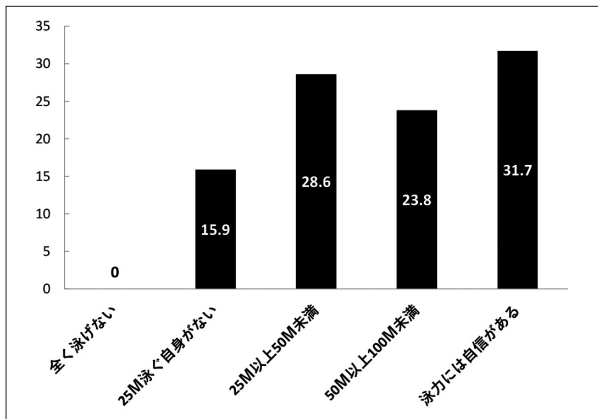


図3 受講前の泳力 (自己申告) (%)

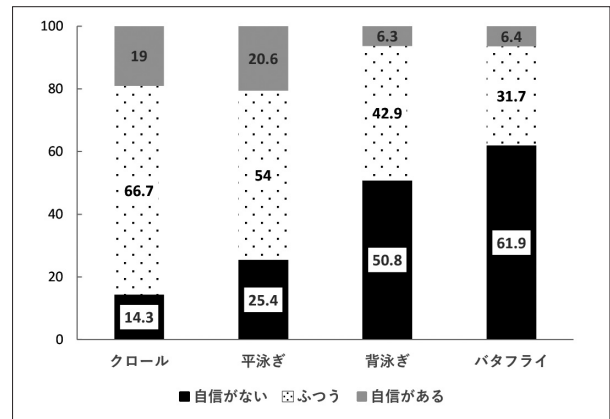


図4 各種泳法について (自己申告) (%)

場所	割合 (%)
屋内プール	90.5
屋外プール	95.2
川	60.3
海	58.7

経験	割合 (%)
あり	7.9
無し	85.7
わからない	6.4

自信	割合 (%)
自信がある	36.5
自信がない	52.4
わからない	11.1

指導	割合 (%)
教わったことがある	27.0
ない	68.2
わからない	4.8

経験	割合 (%)
有り	4.8
無し	95.2

関心	割合 (%)	
あり	23	36.5
無し	20	31.7
わからない	20	31.8

関心	割合 (%)
あり	15.9
無し	38.1
わからない	46.0

経験	割合 (%)
あり	3.2
無し	96.8

や進度は全く同じであった。学習評価の平均値が「学習意欲」が月曜クラス金曜クラスともに8.3、「技能・認識」が月曜クラス、金曜クラスともに11.4、「学習の規律」が月曜クラス11.7、金曜クラス11.6、「協力」が月曜クラス7.7、金曜クラス7.8で、どの評価項目においても高い評価を示した。また、毎回の練習内容について12段階の自己採点をさせたところ (表15)、その平均値は月曜クラス7.4、金曜クラス7.4で、全体として「ややきつい」という結果であった。最終授業終了後の調査では、実技

テストの課題である「100M泳ぐことができたか」という質問に対して「はい」と回答した者が全員 (100.0%) であった (表16)。また、この課題設定が適切であるかという質問に対して、「適切である」と回答した者が90.5%、「どちらともいえない」と回答した者が7.9%、「不適切であった」が1.6%であった (表17)。受講前より泳力がついたかという質問に対して、「ついた」と回答した者が92.1%、「どちらともいえない」と回答した者が7.9%であった (表18)。また受講前より自信がつい

表13 全日程による学習評価（月曜日クラス）

	楽しさ (学習意欲)	達成 (技能や認識)	学び方 (学習の規律)	かかわり (協力)	学習内容 自己評価
平均	8.3	11.4	11.7	7.7	7.4
最大値	8.7	11.6	11.9	8.2	8.5
最小値	8.0	11.0	11.6	7.1	6.2

表14 全日程による学習評価（金曜日クラス）

	楽しさ (学習意欲)	達成 (技能や認識)	学び方 (学習の規律)	かかわり (協力)	学習内容 自己評価
平均	8.3	11.4	11.6	7.8	7.4
最大値	8.6	11.7	12.0	8.3	7.9
最小値	8.1	10.7	11.3	6.9	6.7

表15 本日の練習内容について12段階で評価するならどこにあてはまりますか？

1・2	3・4	5・6	7・8	9・10	11・12
楽	やや楽	普通	ややきつい	きつい	非常にきつい

表16 100M(課題)は泳ぐことができたか %

項目	はい	いいえ	どちらともいえない
	100.0	0.0	0.0

表17 評価設定は適切であったか %

項目	適切	不適切	どちらともいえない
	90.5	1.6	7.9

表18 受講前より泳力はついたか %

項目	はい	いいえ	どちらともいえない
	92.1	0.0	7.9

表19 受講前より自信はついたか %

項目	はい	いいえ	どちらともいえない
	87.3	0.0	12.7

表20 中学生や高校生に指導ができるか %

項目	はい	いいえ	どちらともいえない
	30.2	25.4	44.4

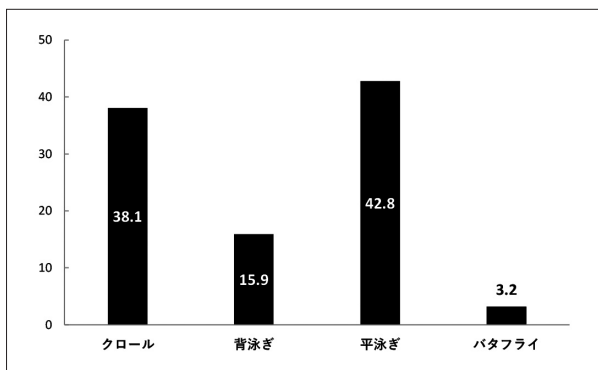


図5 受講後最も自信のある泳法は (%)

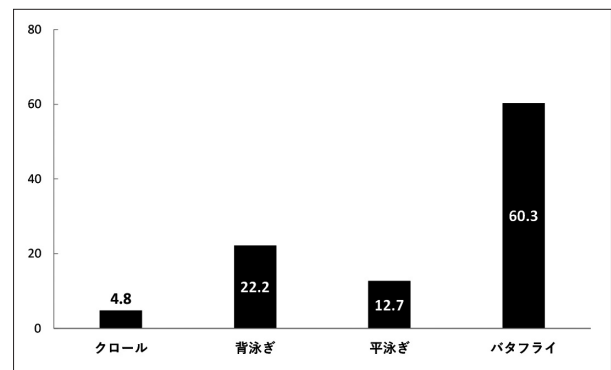


図6 受講後最も自信のない泳法は (%)

たかという質問に対して、「自信がついた」と回答した者が87.3%、「どちらともいえない」が12.7%であった(表19)。中学生や高校生に水泳指導ができるかどうかについては、「できる」と回答した者が30.2%、「どちらともいえない・いいえ」が69.8%であった(表20)。受講後自信のある泳法についての質問では、「平泳ぎ」が42.8%、「クロール」が38.1%、「背泳ぎ」15.9%、最も低い割合であったのは「バタフライ」の3.2%であった(図5)。一方で最も自信のない泳法は「バタフライ」が60.3%、次に「背泳ぎ」22.2%、「平泳ぎ」12.7%、「クロール」4.8%の順であった(図6)。また、授業内容において最も難しいと感じた項目について、割合の高かった順に「救助法」が68.3%、ついで「立ち泳ぎ」44.4%、「各種ターン」と「平泳ぎの足の動作」が36.5%「バタフライのコンビネーション」が34.9%、「バタフライの呼吸動作」33.3%「バタフライの腕の動作」「バタフライの足の動作」がすべて31.7%であった(図7)。

環境面については、プールまでのバス移動について

「適切である」とした者が76.2%で、「どちらともいえない・不適切である」と回答した者は23.8%であった(表21)。さらにプールの環境(水深・水温・安全面等)についても「適切である」とした者は90.5%、「どちらともいえない・不適切である」は9.5%であった(表22)。泳ぐ時間については「適切であった」が82.5%、「長い」とした者が14.3%、「短い」とした者は3.2%であった(表23)。そして指導スタッフについては「適切であった」とした者は98.4%、「どちらともいえない」が1.6%、「適切でない」とした者はいなかった(表24)。

また、授業全体の取り組みを学生に10点満点で評価させた結果、全体の平均は7.96点であった。

## 考 察

今回の報告は、これまでの報告(水野2018, 2019)の継続研究であり、特にコロナ禍における水泳教育の在り方について考察することが目的である。対象者の特徴や

表21 プールまでのバス移動について %

項目	適切	不適切	どちらともいえない
	76.2	4.8	19.0

表22 プールの環境(水深、水温、安全面)について %

項目	適切	不適切	どちらともいえない
	90.5	1.6	7.9

表23 泳ぐ時間はどうだったか %

項目	適切	長い	短い
	82.5	14.3	3.2

表24 指導スタッフは適切であったか %

項目	はい	いいえ	どちらともいえない
	98.4	0.0	1.6

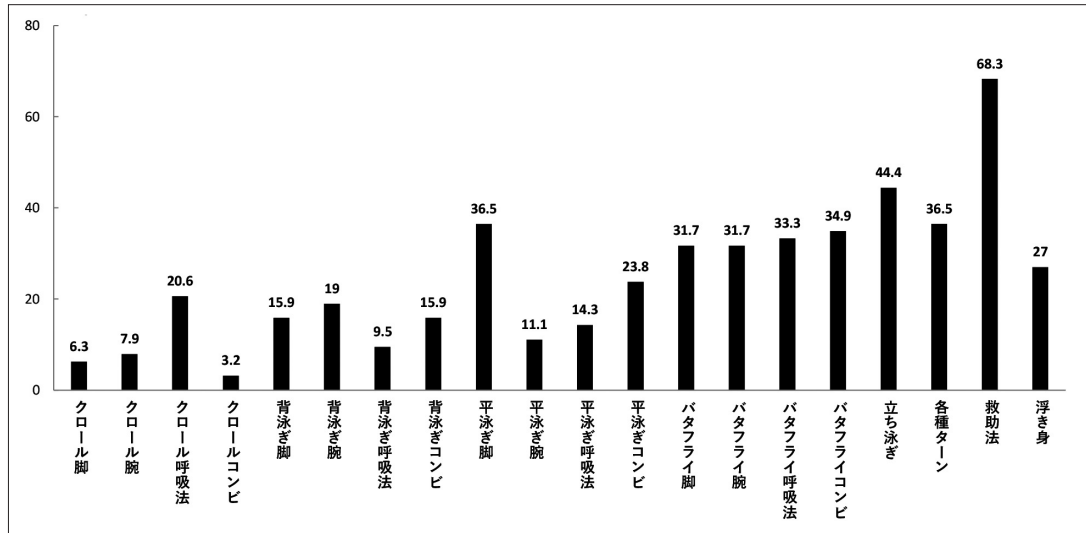


図7 授業内容において最も難しいと感じた項目は何か(複数回答)(%)

表25 取得希望の免許及び資格について %

中学校保健体育科教員免許	44.4
高校保健体育科教員免許	74.6
スポーツインストラクター	28.6
スポーツクラブマネージャー	15.9
初級障害者スポーツ指導員	20.6
中級障害者スポーツ指導員	4.8
スポーツリーダー	15.9
レクリエーションインストラクター	7.9
その他	4.8

水泳指導経験および指導力に関する結果はコロナ禍以前の授業展開と比較して大きな差はなかったが、コロナ禍においてもプールでの対面授業を実施することによって、これまでと同等の成果をあげることができたと考えられる。

### 1. 水泳受講者の特徴について

水泳の授業は教職必修のため、2年生の段階で免許を希望する学生が受講していると考えられるが、今回の調査対象者について、表25に示すように教員免許取得希望者は中学校が全体の44.4%、高校が74.6%であった。中学・高校の両方、あるいは高校のみ希望する学生が7割強であったことから、残りの3割は、科目として必修ではないが水泳実技を選択したことが考えられる。コロナ禍における学外授業展開は、移動することでの感染に対する不安に加え、もともと水泳の授業そのものに不安を

持っている場合もあるので、今回の受講状況には多少の影響が出るのではないかと推測していたがそれはなかったと言えよう。むしろ、参加するたびに泳力の向上を実感できることに満足感を得られ、積極的に参加していただいているのではないかとと思われる。練習中は班単位で指導スタッフの方々が熱心に、そして丁寧に教えてくださるため、それに応えようと努めていた学生や、技術的にうまくいかない場合には、積極的に質問している様子も見受けられた。水泳はどのような泳ぎ方をしているのかをその場では自分で確認することができないため、班の仲間に泳ぎを見てもらったりして、互いに教えあっている姿も見受けられた。全体的に向上心が高く、授業に取り組む姿勢は良かったと思われる。今回の対象学生もこれまでの報告(水野2018,2019)と同様にスポーツ系学生特有の傾向がみられた。スポーツや運動の実施に積極的であり、過去の体育の成績評価も良かった者の割合が高かった。しかし、現在の自分自身の運動能力や体力に自信がない者が4割、さらに健康に自信がない者が2割弱もいることから、なぜこれほど自信が持てないのか疑問である。スポーツに関する関心度について、専門書を読むよりはDVDなどの視覚教材を活用する者の割合が高かった。大学の遠隔授業においても講義資料を配信して読むだけでなく、例えば「パワーポイントのスライドに音声をつける」、「Zoomでライブ配信をする」、「YouTubeの動画をあげて見させる」といった取り組みをしていた先生方の授業もかなり効果的であったようである。毎回



の授業で記載させる感想欄に次のような記載があった。「授業の中で指導してもらったことがすぐにできなかったことが悔しかったので、帰宅後インターネットの動画を検索して繰り返し何度も見た。そのことでイメージが膨らみ、次の授業にのぞんだら出来るようになったので嬉しかった」このことは、実技の授業は対面に勝るものなしと思っていたが、「水泳中は自分の泳ぎが見えない」という泳ぎのマイナスの特性を克服するための手段として、視覚教材等も大いに活用できる学習方法であると考えられる。今後の授業展開に活用していきたい。

自分の性格の自己評価として、明るい性格としている者が約5割、忍耐力のある者が7割であった。しかし努力家だと自負する者は5割に満たなかった。耐えることはできるが、努力することは苦手ということだろうか。水泳の実技評価の1つに、「100M完泳する」というのがある。これは「クロールともう1種目以上とり入れること」という条件を付け、種目が増えればそれだけ加点されて評価が高くなるということも予め受講生に伝えていた。実技テストに臨むにあたり各自泳ぐ種目と順番は事前に申請することになっている。今回の受講生は最低レベルの2種目のみを申請した者が圧倒的に多かった。例年だと一番泳力の高いグループにいる学生などは、4泳法すべて取り入れて100Mを泳ぐことが多かった。しかし今回は数人しかチャレンジしなかったことや授業以外にテストに向けて練習をしに行く学生も少なく大変残念であった。プールでの授業時間数が例年よりも少なかったことや、やはりコロナ禍であるということも影響したのかも知れない。

対人関係においても、今回の対象者は幅広い年齢層ともかかわっていくことができるようにみてとれるが、コロナ禍においてさらに人との交流する機会が減ってしまっていることから、コミュニケーション力を高めるための活動の機会を学内でも設けていく工夫が必要である。

## 2. 水泳受講者の指導経験と指導能力について

運動・スポーツ指導の経験や指導意欲は思っていた以上に高い割合を示していたが、保健体育科教員を希望する者は4割であった。水泳の指導については、指導経験のある者はほとんどいなかったが、水泳指導法には4割弱の者が関心を持っていた。しかし、受講後の調査から、中学生・高校生に水泳指導ができると回答した者は3割をきっているので、自身の泳力については技術的にも自信はついたが教える力は身につけていないということが明らかになった。つまり、指導力まで身に付けさせるには現在の時間数では全く不足しているということである。しかし、中学・高校の保健体育の教員になった際には教えなければならない立場になるため、せめて教員を目指す学生については、水の事故から命を守るための手段や方法を伝えることができる力を身につけなければならない。

## 3. 大学における水泳教育について

今回の受講生の学校体育における水泳経験をみると、小学校の体育の授業では全員が経験しており、中学校で9割弱、高校では3割を切っていた。中学校や高校の学習指導要領にそって段階的に学習が進められていれば、能力差はあってもスポーツ系の学生であればある程度の泳力が備わっていても不思議ではないのだが、今回の受講生においても、全く泳げない者はいなかったが泳力的には不安要素の高い者が多かった。特に呼吸動作においては、水中で鼻から息を出すことができないために長く続けて泳ぐことができない者や、平泳ぎの正確な脚の動作ができていないのに、平泳ぎには自信があると勘違いしている者が大変多かったことに驚かされた。幼少期にスイミングスクールに通っていた者は別として、これまでの学校の体育の授業で学習した内容について聞いてみると、集団および一斉指導の限界を感じさせられる。体育科で水泳を専門とする教員が必ずいるとは限らないし、水泳の授業展開には屋内や陸上種目と比較すると様々な不安材料が多い。水を介することから安全面の確保はもちろんのこと、環境の整備、指導体制に予断を許さない。さらに生徒の苦手意識が強いとか、女子の月経の対応など多くの対策を必要とする。また、学校のプールの老朽化に伴ない、新しく建設する方向に向かうのではなく、既存の民間のプール施設に場所を借用したり、水泳の指導そのものを学校の専任教員ではなく、施設の指導スタッフに依頼するようなケースもあるようにも加えて、このコロナ禍になった。全国の学校で水泳の授業はどうするかという議論が繰り返された。本年度の文部科学省の通達（一部抜粋）では、『・・・児童生徒の健康と安全を第一に考えて、地域の感染状況を踏まえ、密集・密接の場面を避けるなど、下記の事項を十分に踏まえた対策を講じた上で、水泳授業の実施について検討してください。・・・』となっており、実施してはならないとは伝えていない。結局判断はそれぞれの市町村あるいは学校の判断に委ねられ、地域差は大きかった。そのような状況下においても、耐水性のある専用マスクを用意し、様々な工夫をして水泳の授業に取り組んだ学校もあれば、不安を感じる保護者や児童のことを鑑み、水泳の授業は中止した学校もある。（中日新聞2021）また、学校水泳研究会は「子どもたちの水辺での危険から自分の命を守る力は生きていく上で必須であるから水泳教育は止めてはならない」（2020）と強くメッセージを伝えている。それでは、大学の限られた水泳の授業で何を教育しなければならないのか。それには優先順位をつけていかなければならない。やはり一番重要なのは「水の事故から自分の命を守るための術」を身に付けることである。今年の警察庁による水難事故の発生件数(2020)は1,353件、そのうち水難者(人)の数は1,547という。いずれも前年比増である。今回の受講生の中にも過去に

水の事故を経験した者がいたが、そのような経験をする  
と益々水に対する恐怖心がわいてしまう。また新聞の記事  
(中日新聞)によると、コロナ禍によって海水浴場が閉鎖  
されても人が来て泳ぐ権利までは侵すことはできないた  
め、監視体制がない中で事故が起きやすい状況であるこ  
と、また頼りのライフセーバー自身に「感染するかもし  
れない」という怖さから任務を受けてもらえないことも  
あるなど課題も多い。今後将来的にも、家族や友人と海  
や川に出かけることもあることを考えると、より一層水  
泳教育は重要と考える。特に自然に対する対応力を養う  
ためには、家庭を基本として、学校現場でも自然環境  
下における実践教育が必要である。本学部のカリキュラ  
ムにはそのような科目の配置がないというのも大きな  
課題である。2番目に重要なのは、教員養成課程におけ  
る実技科目であるにもかかわらず、前述したように指導  
力を身に付けるには時間が不足している。本学の学生も  
各自の泳力向上を目指すだけで精いっぱいである様子か  
らみると、授業の事前事後の学習の仕方を充実させる工  
夫も必要と考える。例えば予習においては、プールで学  
習する内容について把握させ、加えて指導する側の内容  
を含めた資料の提示や動画の提供をする。復習において  
は、その時間に学習したことの到達度を把握させ、到達  
しなかった場合にはどうしたら到達できるかを考えさせ  
るなど、様々な方法が考えられる。今後検討課題とし  
たい。

半期の授業を終えて学生の授業評価結果から、9割程  
度の学生が泳力も向上し自信もついたらと回答していた  
ため、概ね高い評価が得られたと思われる。水泳はその  
授業体制から、泳がざるを得ない状況に追い込まれ、学  
生自身の体力によってはかなり疲労しているかもしれな  
い。しかし回数を重ねて練習をすればするほど、自らの  
上達度が実感できる喜びがある。そこに立ち合えること  
も指導する側の充実感であろう。学生の毎回の授業の感  
想を読むと、学生自身に常に新しい発見や気づきがあっ  
たり、お互いに教えあったりすることが心地良いようであ  
った。特に泳力の高い者の中には、自ら声をかけること  
はなかなかできなくても、仲間に「教えて」といわれ  
て教えた体験が、自分の自信につながりよい成果を生ん  
でいると思われる。

#### 4. 今後の水泳の授業に向けて

コロナ禍の本年度の水泳の授業全体を踏まえて、次年  
度以降に向けて留意しておく。

これまで以上にコロナ感染予防対策を徹底することに

重点を置かなければならない。自らも、そして学生たち  
に向けても対策を理解させ、さまざまなルールを遵守し  
てもらえるよう丁寧に指導していく必要があるだろう。  
また、いつ収束するかわからないものに必要以上に悲観  
的になることや、危機感をもつことは心のダメージも大  
きい。恐怖心をあおることもあってはならない。水は人  
間にとってなくてはならないものであり、水との関わり  
方について教育し続けることが、水泳指導担当者の使  
命であると考えられる。筆者自身もこれまでの水泳の授  
業は泳力の向上や指導力を身に付けることを優先して  
きたと思われる。このコロナ禍における水泳の授業展  
開を通して、あらためて水泳教育とは何かということ  
を考えさせられた。今後より充実した授業展開がで  
きるよう自己研鑽に励みたい。

### おわりに

コロナ禍において、無事に水泳の授業が対面で実施  
できたことは、受講生たちの協力もあるが、特に今回  
借用したプール施設(スポーツクラブ)の指導スタッフ  
をはじめ、管理・運営をしている方、監視員の方、  
エスラインのバスの運転手さんなど多くの方々に支  
えていただいたからこそである。ここに感謝の意を述  
べておく。

### 引用文献

- 学校水泳研究会「水泳学習をとめない」2020.6.6
- 警察庁統計「令和2年夏期における水難の概況」2021
- 全日本スキー連盟「楽しいスキー教室」スキージャー  
ナル株式会社, 1996
- 中日新聞2020.8.07朝刊
- 中日新聞2021.6.24朝刊
- 水野かがみ「スポーツ健康科学部における水泳の授  
業展開について」中部学院大学・中部学院大学短期  
大学部教育実践研究, 第4巻, P191~200, 2018
- 水野かがみ「スポーツ健康科学部における水泳の授  
業展開についてⅡ」中部学院大学・中部学院大学短  
期大学部教育実践研究, 第5巻, P185~194, 2019
- 文部科学省「中学校学習指導要領」P102-120, 2017
- 文部科学省「高等学校学習指導要領」P132-136, 2018
- 文部科学省「学校の水泳授業における感染症対策  
について」2021.0409付・事務連絡